

## 14. オープン・スペースのデザイン

### 14.1 オープン・スペースの種類

キャンパスにおけるオープン・スペースは大きく、つぎの3種類に分けて考えることができる。第1は、10.2で述べた保存緑地であり、これは原則として緑化が施されるもので、面積は約80ヘクタールである。第2は主として実習農場およびスポーツグラウンドからなる機能的屋外空間で、面積は約60ヘクタールである。第3は、建築区域の中に散在する小規模なオープン・スペースおよび将来増築のためのリザーブ用地からなるもので、面積は約40ヘクタールである。合せて約180ヘクタールのオープンスペースは、キャンパス全面積のほぼ3/4を占め、全学の景観の基調をつくり出す役割をになっている。

このなかで、まとまったオープン・スペースを生み出しているのは、主として第1の保存緑地のなかの利用緑地（約45ヘクタール）である。そのおもなものは Fig. 14.1.1 に示すが、北緑地・兵太郎緑地、大学公園、芸術の森、南緑地・天久保池、追越緑地などであり、それぞれ独自の空間構成と機能とを有していて独立性の高いオープン・スペースであるが、全体としては、アカデミック・コアと南北の居住地区との中間に配置されて、景観的にも心理的にも、ひとつの変換スペースの役割を果すよう計画されている。

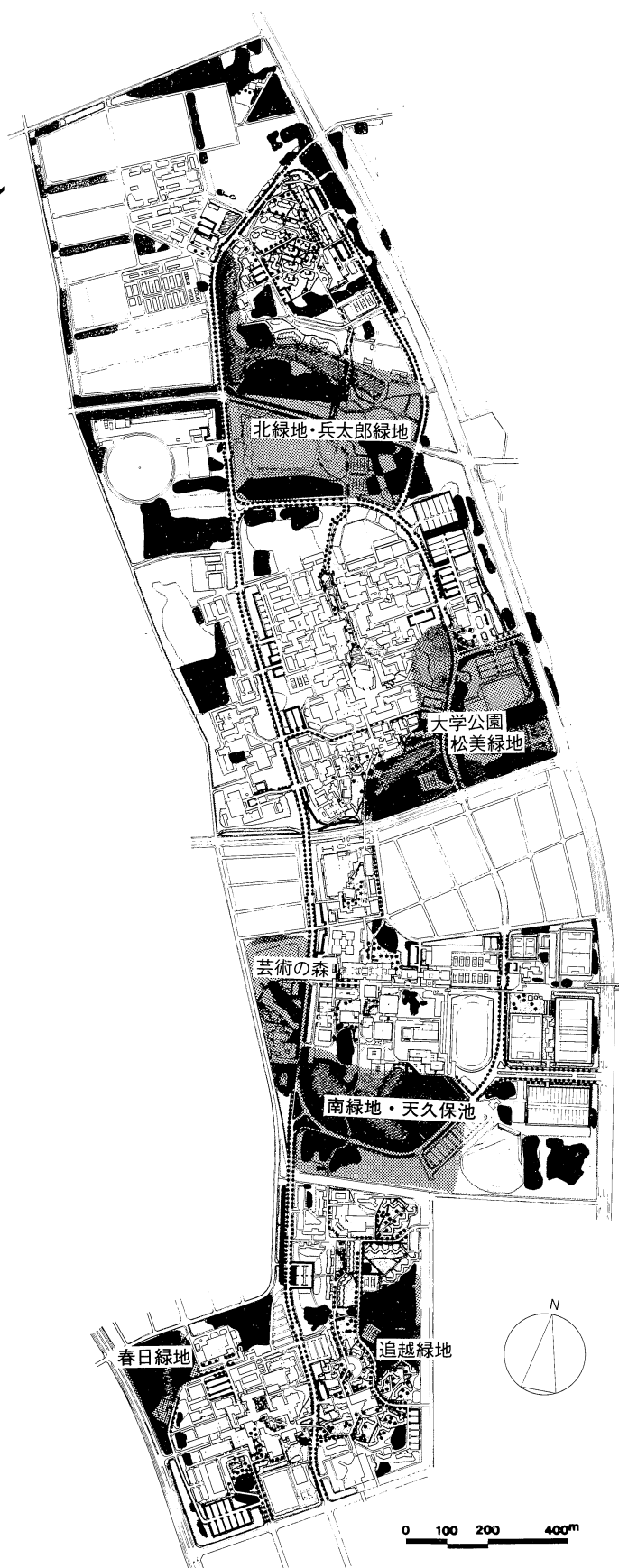
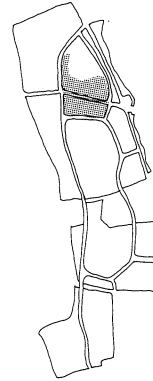


Fig. 14.1.1 オープン・スペース配置図



設計 土肥博至  
小野敬也

## 14.2 北緑地・兵太郎緑地

キャンパスの北端部に位置する一の矢学生住宅地（約1,500人）と北部アカデミック・コアの間は、ほぼ700メートル離れており、この間には建築的な施設は配置されていない。このスペースは、居住地から学習の場へ通う学生達の気分転換の時間を生み出すものであるとともに、南の南緑地（天久保池）とならぶ、キャンパス環境を保持するための重要なオープン・スペースである。ここのオープン・スペースは、その中央部を東西に県道（藤沢・豊里線、巾員12メートル）が通過していて、南北に2分されている。道路の南側の約8ヘクタールが北緑地と呼ばれ、北側の西半分約6ヘクタールが兵太郎緑地と呼ばれる。北側の東半分は植物園の予定地である。

北緑地はその中央を南北にメイン・ペデが貫通しており、このペデは県道と立体交差するため、G.Lより約5メートル高い位置まで、南から北へ登ってゆく。ペデの東側にはテニスコート、西側には不定形の大規模な芝生のオープン・スペースが造成されているが、このオープンスペースは、さらに数メートル高いマウンドで北および西をとり囲まれて、広いにもかかわらず、ある種の落付きを持っている。このマウンドやオープン・スペースは、大学の建設によって生じた、約10万立方メートルの残土を利用してつくり出した、大地の造形である。兵太郎緑地の中心は何とんでも兵太郎池であるが、この池は、従来の谷津田の地形をそのままに、さらに堀り下げて造成したもので、全長550メートルの細長い、独特の池である。この池を囲んで周囲には、既存アカマツ林を徹底して保存し、わずかに散歩道や池面を渡る飛石状のルートが設けられている。このように、このふたつの緑地は、前者がオープンで活動的な性格を基本とするのに対して、後者は、林に囲まれた中の静かな水面という対比をつくり出すようにデザインされている。なお、兵太郎池の北のはずれに、池に沿って建つ3本の既婚学生用高層宿舍棟は、キャンパス北部のランドマークである。

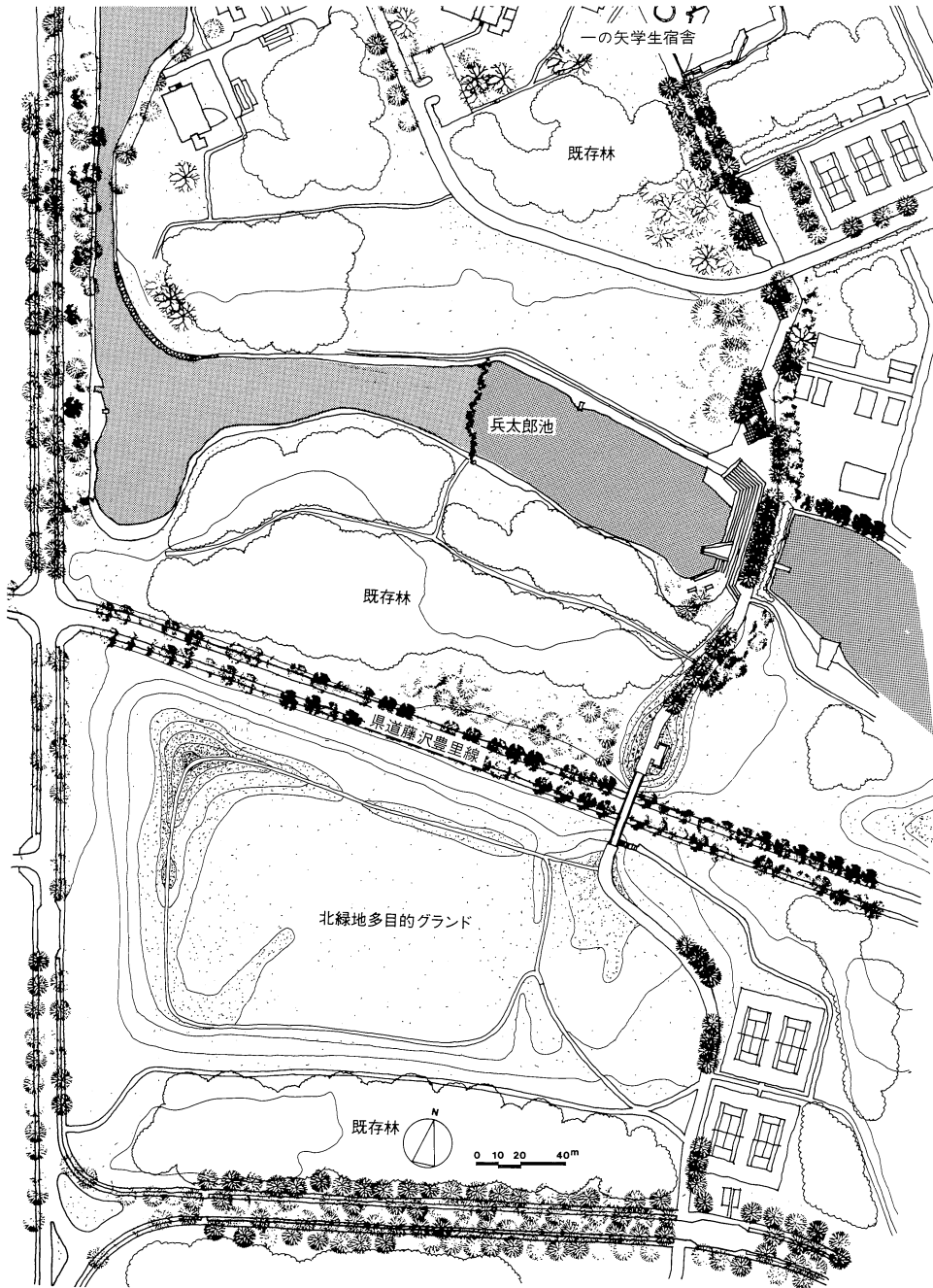


Fig. 14.2.1 北緑地・兵太郎緑地平面図

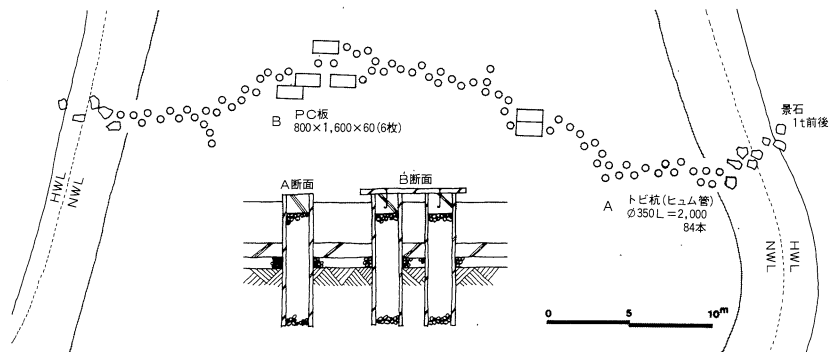
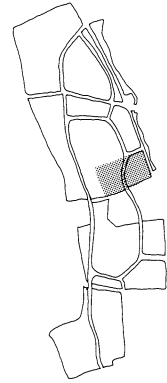


Fig. 14.2.2 飛び石のデザイン



### 14.3 大学公園・松美自然保護緑地

設計 小野敬也  
水村英之

全体で2箇所しかない自然保護緑地（もっとも強い緑地保全地区）のひとつである松美池を中心とした約3.5ヘクタールの地区では、裸地の部分の補植と、池の水位調節のための小規模な調整池、および湿地性植物の生育環境をつくるための小規模な水面を設けた以外には、南側を通る1本の遊歩道をつくっただけで、その他には一切手を加えていない。

この保護緑地の北側に接する約3ヘクタールが大学公園であるが、ここにはこの優れた自然を利用し、しかも活動量の小さい施設として、スタッフ・クラブを計画している。この大学公園は、大学のメイン・エントランスに位置し、北側の本部棟とペアになって、外部からの来訪者を受け入れる空間である。したがって、緑豊かなオープン・スペースとして、外部の人びとにも開放されることが想定され、また入学者の発表場所などとしても使用されるように計画された。しかし、現在は、外来者用駐車場として利用されており、計画とは異なる空間となっている。

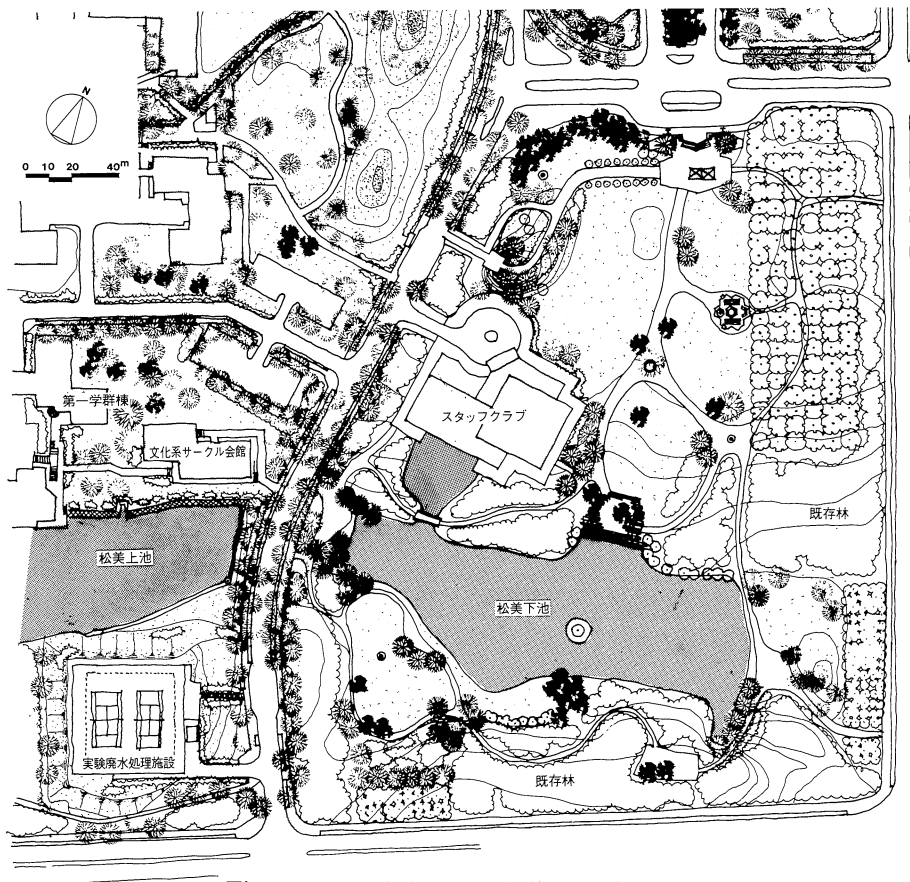


Fig. 14.3.1 大学公園・松美緑地平面図

#### 14.4 芸術の森

設計 土肥博至  
水村英之

芸術の森は、芸術分野の教育・研究施設が集中している南コアの西側の南北に細長い地区である。この地区は、大きくはオープン・スペースとして位置づけられるが、内容はかなり特殊な機能を複合的に配置するもので、ただその機能の性格上、地区全体を樹林でおおうことが意図されているのである。

地区は南北に3分され、北部に芸術センター(計画のみ)を置いて、大学の公開活動のうちの芸術分野の基地とする。とともに、屋外彫刻などの展示スペースとする。中央部に小規模な日本庭園を造成し、ここに和風建築(集会室、宿泊室、茶室など)を配置し、国際交流のひとつの場とする。南部には、禅道場形式の和風建築による開学記念館を建設し、学内各種団体の集会等の交流の場とする。

この地区は全体は未完であるが、キャンパスの中では他にない、日本の伝統的な環境を創出することがデザインの主目標である。

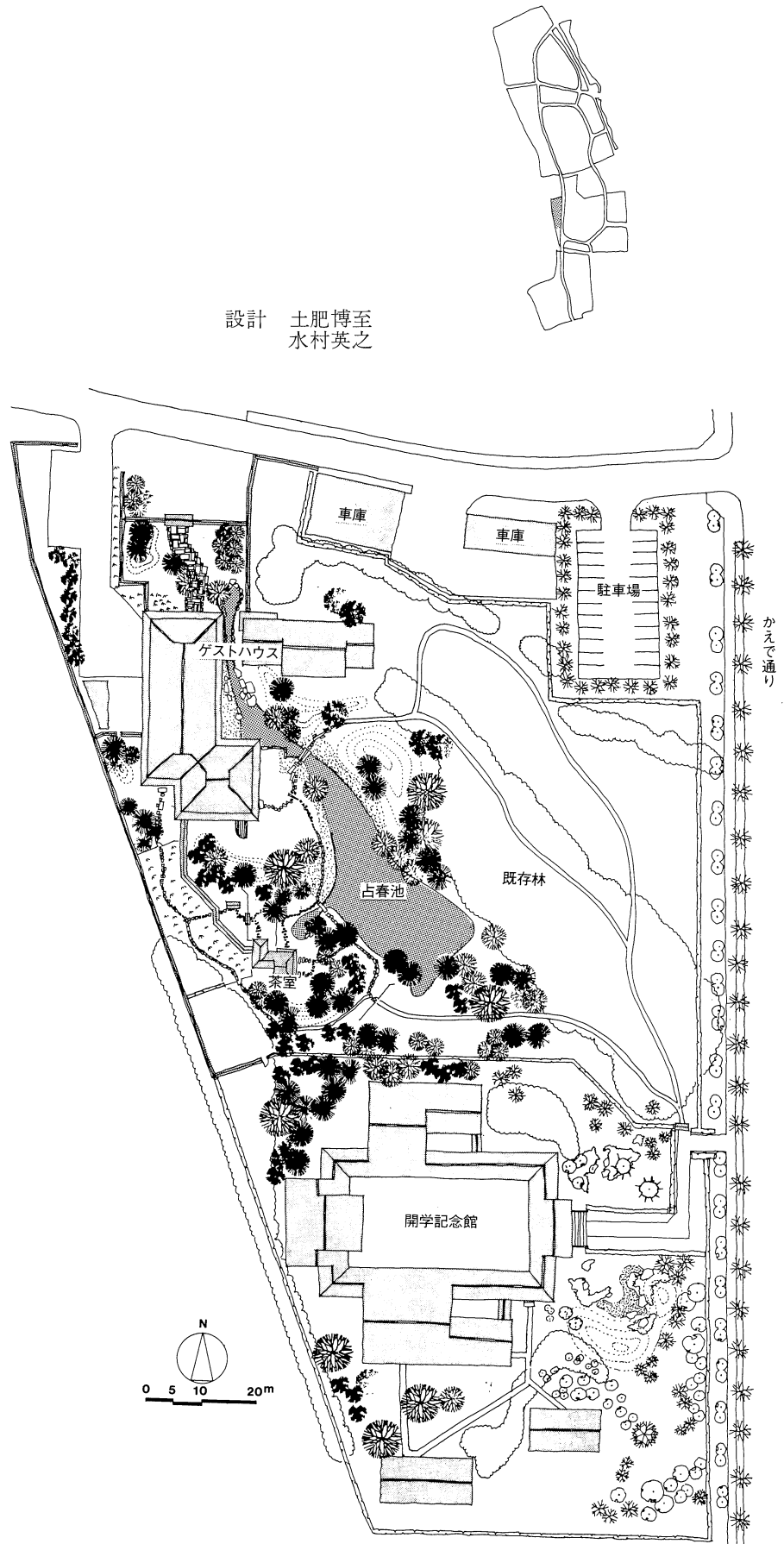
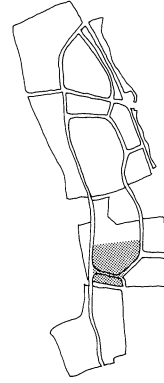


Fig. 14.4.1 芸術の森平面図



### 14.5 南緑地・天久保池

設計 小野敬也  
土肥博至

天久保池を中心とする南緑地は、体育と芸術の両分野からなる南コアの南に計画された、面積約10ヘクタールの、構内最大のオープン・スペースである。敷地中央を東西に通過するループ道路の南側は、平砂学生居住地区との間の緩衝空間として、森林を配置し、敷地中央部に2ヘクタールの大きな人工池（天久保池）を設け、東側に、平坦な芝生の自由広場を、アカデミック・コアとの接点部分に2つの小山を配して景観の変化を意図している。池は橋によって2分されるが、大きい方の池はボート等の直接利用を目的とした、明るい雰囲気のものである。

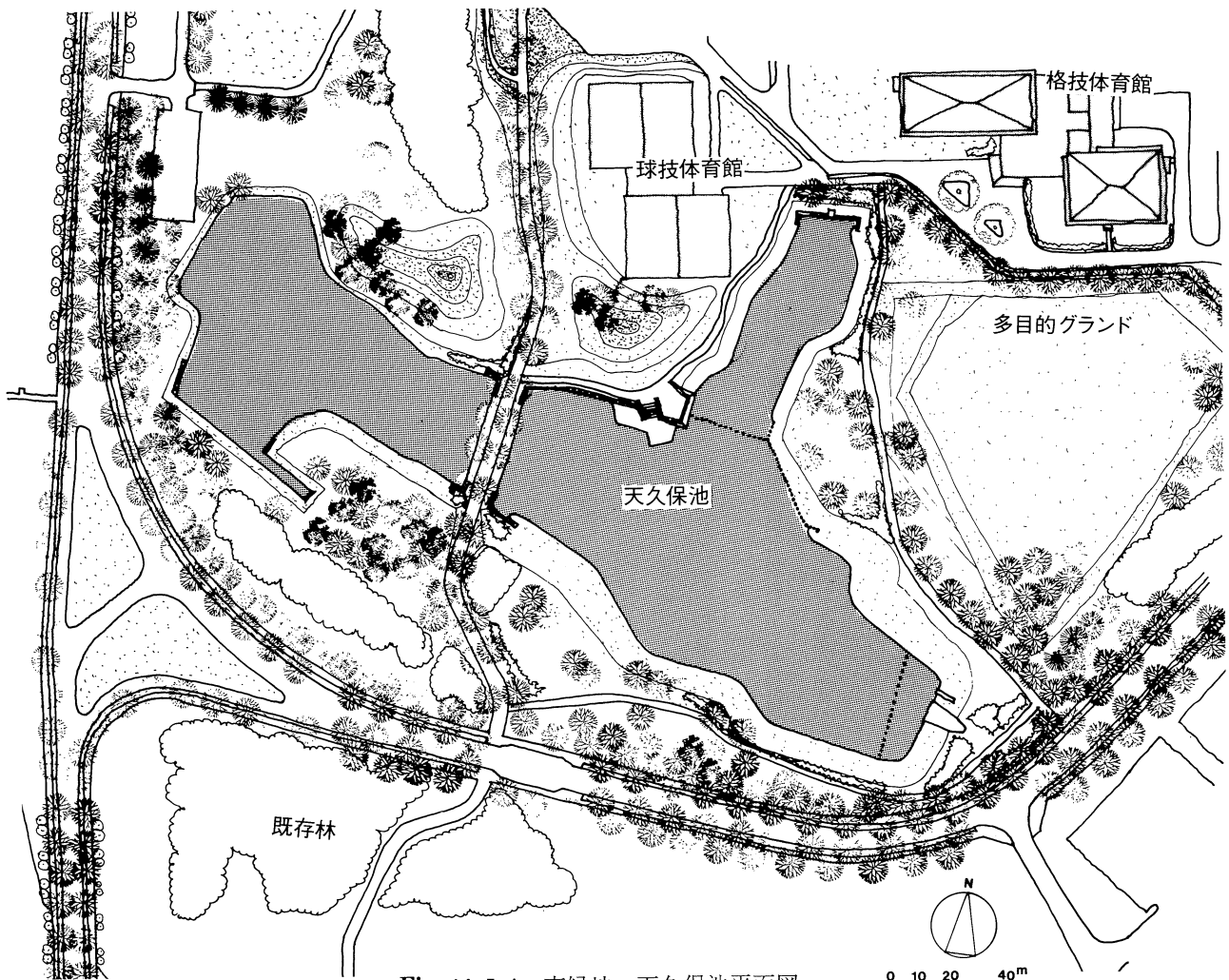
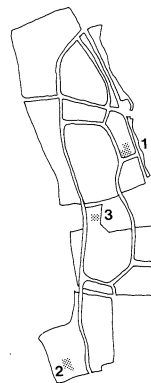


Fig. 14.5.1 南緑地・天久保池平面図



## 14.6 建築区域の中の小オープン・スペース

オープン・スペースには、前項までに述べたような大規模で独立性の高いオープン・スペースのほかに、より小規模で、建築に付随したり、建築と一体化したりしている小オープン・スペースがある。この小オープン・スペースは数が多く、デザイン上の扱い方も、建築との関係のあり方がさまざまであるが、人びとの生活との結びつきの深さという点では、身近に位置するものだけに、大オープン・スペースよりもむしろ強いものが多い。ここではこれらの小オープン・スペースのうち、特色あるものいくつかを取り上げて、その設計意図を述べる。

### 1. 病院の前庭 (Fig. 14.6.1)

600ベッド（現在は800）の大病院の南側スペースは、外来部門、入院部門、救急部門それぞれの自動車の寄りつきを準備し、バス（路線バスおよび学内バス）の停留所を設け、大規模な患者用駐車場からの歩行ルートを確認する、という交通のための空間である。しかし一方で、静かな落ち着きと明るい雰囲気を用意することは、上記の機能的必要性を満足すること以上に大切と考えられた。そこで、1車線、ワン・ウェイのロータリー式の自動車アクセス道路によって交通をさばき、歩行空間はこれを取囲むようにして、真中のアイランドを水と緑でデザインすることとした。アイランドの南半には既存のアカマツ林を間引いて残し、北半は、小規模な水面を中心に、かん木の刈込み、フラワー・ベッド、3本のシンボル・トリーとしてのクスノキなどで、明るさと深みを出すデザインを試みた。

### 2. 本部棟ロビー庭園 (Fig. 14.6.2)

学者が最初に訪れる本部棟の1階ロビーの北、東面を取りまくようなL字型の小庭園である。奥行きを浅さをカバーするために、高密度な植栽を行うこと、ロビーの北にあたる面は、南からロビーに入る人々の視線の正面にあたるので、ここに近代的な石組を行って、庭の中心をつくること、の2点がデザインのポイントである。なお、本部棟の南側には、東に自動車アクセスおよびパーキングを主とした広場、西に職員や訪問者が休息できるピンコロ敷の木蔭をもつ広場がつけられている (Fig. 14.6.3)。

### 3. 大学会館レストラン庭園 (Fig. 14.6.4)

全学の文化・集会活動の中心であり、地域に対しての大学開放施設の中心である大学会館は、大・小の2つのホールや多くの集会室のある建築から、ななめに外部（広場側）に突き出るようにウィングがのびているが、この1階は2階分吹き抜けのレストラン、3階はレセプション・ホールであり、この複合建築の形態上も機能上もシンボリックな部分となっている。このレストランを取り囲むように、濃密な植栽を施した庭園がつけられている。庭園の外周は、2階のレベルにある歩行空間との間に壁面が立ち、ここには、キズタによる垂直緑化が試みられており、外からみると、レストランは、1階分サンクした落付きのある空間に置かれるようにデザインされている。また、庭園の東のフリンジをキャンパスのメイン・ペデが、南から北にレベルを下げながら通過しており、変化のあるシーケンス景観をつくり出している。

